

EGYPTIAN NIGHT

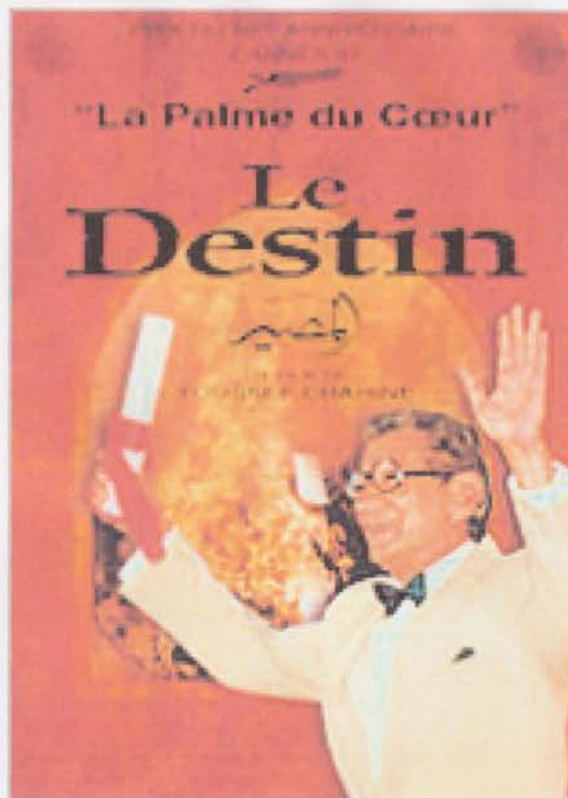
エジプシャンナイト **ليلة مصرية**

本日の上映作品 **دعوة لحضور عرض فيلم**



سفارة جمهورية مصر العربية
المكتب الثقافي
طوكيو

炎のアンダルシア **المصير The Destiny**



Date: Friday, May 21th, 2010

Time: 6:30 pm

Venue: Culture, Education and Science Bureau, Embassy of Egypt

Tokyo, Meguro-Ku, Higashigaoka 1-19-17

Free Admission

日時: 5月21日(金)18時半から

場所: エジプト大使館 文化・教育・科学部

〒152-0021 東京都目黒区東が丘 1-19-17

TEL 03-5779-8030 FAX 03-3795-7161

<http://www.egyptcesb.jp/>

入場料無料



YOUSSEF CHAHINE

1926 - 2008



エジプト料理の軽食をご用意しております。

(ターメイヤ[そら豆のコロッケ]、アエイシ[ピタパン]、ソフトドリンク)

炎のアンダルシア

المصير The Destiny

映画のあらすじ

12世紀も終わりに近いイベリア半島。現在のスペインの南半分がアンダルシアと呼ばれ、イスラム帝国ムワヒッド朝カリフ・マンスール統治下にある頃、宮廷のある首都コルドバは、西ヨーロッパの文化の中心地でもあった。アベロエスは先代カリフの時代から宮廷医師と大法官を務める知識人である。彼とその妻ゼイナブの家には、異端裁判で父親が火刑に処せられ、フランスから逃げてきたジョゼフ、カリフの弟でコルドバ知事のアブー・ヤフヤー、カリフの二人の息子のうち二男で踊りが好きなアブダッラーをはじめ、友人や若い弟子たちが集まる。マヌエラとサラの姉妹が営む大衆酒場にも、たくさんの若者が集まっていた。マヌエラの亭主マルワーンは吟遊詩人であり、サラに熱い思いを寄せている。

当時のアンダルシアはレコンキスタ(国土回復)を唱える周辺のキリスト教諸国と対峙し、戦闘が絶えなかった。国内でも主導者シェイフ・リヤード率いる原理主義的な一派が勢力を強め

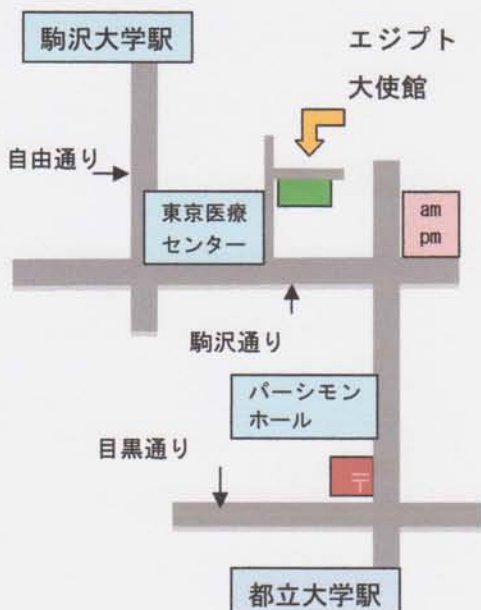
つつ外国とも通じて、カリフ打倒に暗躍するなど危機が迫っていた。アブダッラーに近づくブルハーンは甘い言葉で原理主義の祈禱に誘い洗脳する。マルワーンは緑服の原理主義者3人組に襲われ瀕死の重傷を負ってしまう。アベロエスは迫りくる危機を感じ始め…



ユーセフ・シャヒーン監督の紹介

1926年エジプトのアレキサンドリア生まれ。高校卒業後米国に留学し、パサディナ・プレイハウスで映画と演技を学び48年に帰国。25才で長編第1作を発表。79年に「アレキサンドリア WHY?」が第29回ベルリン国際映画銀熊賞を受賞。97年第10回東京国際映画祭のためにヤングシネマ・コンペティション部門の審査委員長として来日。2008年7月死去。

エジプト大使館 文化・教育・科学部へのアクセス



東急東横線 都立大学駅から徒歩約17分
 田園都市線 駒沢大学駅から徒歩約17分
 東京医療センターの近く、東根小学校のプール側。隣はアゼルバイジャン大使館。

徒歩の場合: 駒沢通りから“かぶき門”というレストランがある道に入る。

タクシーの場合: 駒沢通りから青い歩道橋の側、米屋がある道に入り、一つ目を左に曲がる。(駐車場はご用意しておりません)